

2023年度(第20回)総会終わる

日 時：1月22日(日) 午後1時00分開会
場 所：村上市教育情報センター 視聴覚ホール



2023年度(第20回)総会が村上市教育情報センター1階視聴覚ホールにおいて開催されました。座席の間隔を空け、受付時の検温・手指消毒とマスク着用など、新型コロナウイルス感染症防止の対策をとって行わ

れました。その後、武田宏様の講演会があり、市民の参加者も多く盛況でした。

総会では、2年振りに懐かしい顔が見え、元気を喜び合いました。

2023年度総会に当たって (挨拶文)

いわふね自然愛好会会長 富樫繁春

新年おめでとうございます。昨年8月の豪雨災害で被災された会員の方には心からお見舞い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、総会をはじめ懇親会、宿泊研修会などを中止しました。観察会だけは、会員を中心に開催してきました。

また、昨年はあらかわみらいファンド事業から50万円の助成を得ることができ、3年間、高坪山の自然調査に取り組んできた成果として報告書の発

行に向けて現在編集中です。

また、環境省からアカハネバタ保全活動の依頼があり、5名で予備調査を行いました。生態についてほとんど謎のバタです。間もなく報告書が完成し環境省へ提出しますので、同じものを会員の皆さんへもお届けします。本年度は、無理のない範囲で、是非ご参加下さいませようお願いします。

昨年の参加人数をみますと、観察会185人(下見含む)、学習支援954人(下見含む)、高坪山調査

150名、あらかわみらいファンド210名、アカハネバツタ保全70名、総計延べ1,520名となります。含めていないものもありますので、実数はこれを上回る人数となります。

さて、本年度は、設立20年目です。①自然観察会 ②山元遺跡の自然調査 ③アカハネバツタ保全活動 ④地域や学校の学習支援などに取り組んでまいりたいと思います。

総会の概要は次のとおりです。

(報告事項) の会員入退会では、退会 0名、新規入会 佐藤三津弘さん、佐藤裕香さん、富樫英夫さん、金子治(再加入)さん、浅井泰葉さんの5名があり、会員数は76名となります。

(第1号議案) は、2022年度の事業報告並びに収支の決算にかかわるもので、

- (1) 事業報告では、会議に関するものは6回。研修に関するものでは、宿泊研修は中止。観察会は6回計画したものの、天候不良などで1回中止。下見時の参加数を含め参加総数は185名であったこと。他に学習支援内容、高坪山周辺の自然調査内容、あらかわみらいファンド助成事業、環境保全支援活動の報告がありました。
- (2) 決算報告では、収入の部・会費78,000円・繰越金51,036円・雑収入20,120円、合計149,156円。

先日、TVを見ていましたら、長生きの秘訣は ①よく食べる ②自然の中に身をおく ③歩くの3つだそうです。②自然の中に身をおく ③歩く。②,③は愛好会の活動そのものではありませんか。

以上のように、いろいろ工夫しながら今年も事業を計画し、活動していきたいと思います。会員皆様からいろいろご意見、お知恵を寄せていただき、より充実させてまいりたいと思います。

支出の部の主なものは、・事務費16,450円・事業費57,776円となり、この結果、残高77,987円は次年度に繰り越されることの報告。

また、・基金特別会計・高坪山の自然に親しむ会の収支報告がありました。

(第2号議案) は、2023年度事業計画(案)と予算(案)に関するもので、

- (1) 事業計画では、会議に関するもの7件。研修会1回、観察会6回、みらいファンド関連3件、山元遺跡周辺自然調査14回、環境保全活動等が提案されました。
 - (2) 一般会計予算案 150,000円。支出に対しての不足分は、基金特別会計より繰り入れる。
- 以上の2議案は、審議の結果、原案どおり議決されました。

《研修会》 講演会 「越後の山と森を歩く ―ブナ二次林からブナ巨木まで―」

講師:武田 宏様 (前新潟県森林研究所 森林・技術課長)

季刊『山の本』(白山書房)に連載したコラム「越後の山と森を歩く」(2018～2019)の内容を多くの写真をもとにご講演いただきました。

内容は

①. 東ゴビ砂漠から日本の森を想う

- ・植生は、気温と降水量で大きく決まる。
- ・森林が成立する環境は、世界の陸地の約3割。
- ・日本は降水量が多く、気温によって4種類の森

林が成立する。

②. 標高とともに変わる森林

- ・森林の種類は標高でも変わる。
- ・新潟県の森林は標高により、常緑広葉樹林～落葉広葉樹林(ナラ林, ブナ二次林, ブナ自然林)～常緑針葉樹林と変化する。
- ・登山はものすごい速度で北に進んでいるのと同じ。



③. 常緑広葉樹の分布の秘密

- ・森林は人工林と天然林(自然林、二次林)に分けられる。
- ・新潟県の海岸付近は常緑広葉樹林帯。社叢林に残っている。
- ・海岸付近の落葉広葉樹林は常緑広葉樹林に戻りつつある。

④. 越後に最も多い樹木はブナ

- ・新潟県のブナは、標高10mから1900mまで分布する。
- ・ブナ自然林はモザイク状。ブナ自然林は変化しながら、ブナ林を維持している。
- ・森林の更新は、森林の種類によって異なる。

⑤. 年間10万人が訪れるブナ林

- ・樹林は2つの方法(実生、萌芽)で再生する
- ・ブナは30年生くらいから実を付け始め、豊作は、5年～7年に一度。
- ・ブナの萌芽は、50年生を越えると発生しない。

{ 以上の項目について、わかりやすく説明があり、特に高坪山の植生等については、非常に参考になりました。 }

- ・ブナ林は、伐採の頻度やタイミングによって、ブナ林が維持されたり、コナラなどの森林に変化したりしている。

⑥. 雪上伐採されたブナの奇木

- ・新潟県内では、ブナ二次林のなかに「あがりこ」状のブナがたまに見られる。
- ・「あがりこ」は雪上伐採されたため、できあがった樹形。
- ・新潟県内の「あがりこ」は、林内に1本～数本。



⑦. 高坪山の森林観察

- ・高坪山で2020年4月、県内最大級の単幹ブナが発見された。
(単幹ブナは、伐採の影響で肥大化したブナ(異形ブナ)とは異なり、自然状態のブナのこと)
- ・高坪山は、二次林から自然林に近いブナ林まで、手軽に楽しめる山。

《観察会》 山元遺跡周辺自然観察会 4月9日(日)

4月9日(日)に、今年度最初の観察会が、吉井雅勇様(村上市教育委員会・埋蔵文化財室長)、大野様の案内・説明を交えて開催されました。参加者は、子供7名を含む43名(講師2名、市民24名、会員19名)でした。当日は、前夜の寒冷前線通過の影響が残っていて、少し肌寒い気候でした。4班に分かれて植物観察を行い、山頂部では3ヶ所で遺跡の発掘の様子と概要の説明がありました。お目当てのカタクリは、開花が終わっていました。代わって、マキノスミレが数多く見られ、参加者の目を引きました。

下見会は、3月29日(水)に、講師2名、会員11名で実施。確認種数は95種(植物リスト表 P-7参照)。



山元遺跡の丘陵で

山元遺跡は越後平野北部の丘陵の上に営まれた弥生時代後期(今から1,900年前)に最盛期を迎える集落跡です。

日本海沿岸東北自動車道の建設に先立ち、新潟県教育委員会が行った試

掘調査(遺跡の有無を調べる調査)で発見され、重要な遺跡であることがわかり、現状保存されました。

その後、村上市教育委員会が調査を引継ぎ、遺跡の内容と範囲を確認する目的とした確認調査を行いました。その結果、山元遺跡が北陸の文化と東北の文化の接点に位置する日本海側最北の「高地性環濠集落」であることが明らかとなりました。「高地性環濠集落」とは高台に作られ、周りに濠をめぐるせた集落のことを指し、戦いを想定した防御のムラといった性格を持つと考えられています。

そういった弥生時代の様子を知る上で貴重な遺跡であることが認められ、平成28年10月に国の史跡に指定された遺跡です。

いわふね自然愛好会では、今年、山元遺跡周辺の自然調査を、第2、第4水曜日に、計14回行う計画です。皆さんの参加を希望致します。

《参加者の声》

カエルをつかまえたよ

会田 さん (小学・6年生)

私は自然観察会にさんかして、植物についてきょうみがわきました。だから、道に咲いていたスマレを気にとめるようになりました。

楽しかったことは、山道を歩いたこととカエルをつかまえたことです。つかまえたカエルは、家で少しの間飼っていました。だけど、えさをどうすればいいかわからなかったから、2匹いて1匹は死んでしまいました。だから、もう1匹のカエルはにがしました。

それから死んでしまった方のカエルは、体が茶色から青色になっていました。

それと、昔のことを教えてもらって、今は田んぼの所が潟だったことを知っておどろきました。

山元遺跡の自然観察会に参加して

内山 さん

昭和50年代、夫の転勤先で春になると、社員・家族の人達が参加して行く清掃登山がありました。その時に行った国上山でカタクリの群生に初めて出会い、この花の気品ある姿に心奪われ感動した思い出があります。その後、機会に恵まれず、私の中では幻の花といった存在でした。それが広報で近くの山元遺跡で見られ、遺跡の説明も受けられると知り応募しました。

当日、あいにくカタクリの開花は今年は早すぎて終わっていましたが、斜面の日陰で二～三輪咲いている花に出会うことが出来ました。

《5頁に続く》

《4頁からの続き》

また、遺跡の丘に立ち、聞く説明は深く心に沁み、はるかにしえに思いを馳せながら眼下に見える神納平野、それにつづく日本海と素晴らしい眺めに心潤うひと時を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

《あらかわ野山ざこぎ探検》 親子自然観察会

「蔵王山の歴史跡とブナ自然林」 観察会 4月29日(土)



千手観音ブナ前で

今回の観察会のコースは、胎内市蔵王の登り口～金光山高全寺跡～箸応神の大杉～蔵王権現前立堂～今蔵王堂～蔵王城跡～蔵王権現跡～釈迦岳ブナ自然林～中峰～千手観音ブナ～高坪山山頂～高坪コース～東屋～蔵王登り口で進められました。

天候に恵まれたこの日、元気な子供達を含めた総勢36名と大勢の参加者を得る中での自然観察会となりました。

千手観音ブナの雄大な姿からのパワーをいただくと共に、日本海と荒川平野の眺望を楽しむことができました。

また、緑あふれる登山道では、ユキグニミツバツツジ・ヤマツツジ・ウワミズザクラ・アラカワカンアオイ・ユキツバキ・多くのスマレ等、数多くの植物を観察することができました。(下見時の植物数には、105種を数えました。内容は P-7 のリスト表を参照)。

山頂からの帰路(高坪コース)は急斜面であったものの、子供達の伸び伸びとした健やかな姿から元気を貰い、観察会を無事に終わらせることができました。

《あらかわみらいファンド助成事業》

あらかわみらいファンド助成事業報告会開催 3月12日(日)

あらかわみらいファンド助成事業報告会が、荒川地区公民館で開催されました。

当会では、高坪山の自然の調査結果を纏めた報告書(高坪山自然総合調査報告書)の出版と親子自然教室等について報告しました。

報告書は、

- ・A4版
- ・口絵カラー4p
- ・本文120p
- ・300冊 の予定。



報告会の様子

《環境保全支援活動》

アカハネバツタ生態調査と保全活動の取組

環境省からの依頼を受け、昨年5月から11月まで、月2回のペースで絶滅危惧種のアカハネバツタの生態調査と保全活動に取り組んできました。中間的な業務報告として、今年3月に『塩谷海岸の自然・アカハネバツタ保全・環境省請負業務報告書』(地域自然調査報告書第8集)を発行致しました。

アカハネバツタは後翅が朱色のバツタです。

国内では野生絶滅種とされていましたが、2012年に塩谷砂丘地で26年振りに再発見され、2016年に、環境省種の保全種(絶滅危惧 I B類)に指定。海岸に住んでいるのはここだけです。

調査で分かったことは

- ・5月に卵から孵化し、幼虫は7月初めから成虫に羽化し、お盆頃に繁殖期を迎え10月に一生を終える。
- ・朝露や風、気温が下がったりすると藪の中に隠れ出てこない。
- ・大きさはオス26mm、メス40mmとメスが1.4倍大きい。体重では3.7倍重い。
- ・本年の活動予定日…第1・3・5週の水曜午前。

(天候によって前後に変更)

5月	17日, 31日	8月	2日, 16日, 30日	11月	1日
6月	7日, 21日	9月	6日, 20日	12月	下旬 総括
7月	5日, 19日	10月	4日, 18日		

- ・場所・時間 … 塩谷海岸(集合;海岸駐車場, 活動;9:00~11:30 10分前集合)

・交尾は1時間以上も続く。

・標識による個体数調査では100個体と少数。しかし、どんな風に産卵するのか、卵数、幼虫の脱皮回数、何を食べるのかなど、保全活動に必要なことは何も分かっていないのが現状です。

70代の塩谷の会員の話では「子どものころたくさんいて獲って遊んだ。」とのこと。

そこで

- ①60年前のセナミスミレ、ハマナス、アキグミなどの海浜植物の復元をめざす。
- ②背の高い植物や外来植物を抜き取る。
- ③幼虫の生態と植生の調査。
- ④生息数の調査、などが主な活動です。

いわふね自然愛好会からのお知らせ

2023年の主な行事の日程等は以下の通りです。

会員皆さんの参加を希望致します。

いわふね自然愛好会 前期事業

月	観察会	実施予定日	集合場所	集合時間	下見日	下見予備日
5	日本国山(山北地区)	21日(日)	山北支所 駐車場	8:50	9日(火)	15日(月)
6	菅堅八幡社総林と 寝屋漁港周辺	18日(日)	寝屋漁港 駐車場	8:50	5日(月)	12日(月)
7	荒川頭首口周辺 (水害跡地)	23日(日)	荒川運動園 駐車場	8:50	10日(月)	18日(火)

山元遺跡周辺自然観察会下見時

日時 2023年3月29日

備考の※は写真等あり。

場所 旧神納東小駐車場～用水～登り口～B地点～A地点～沢ルート～舗装道路～旧神納東小駐車場

参加者: 宮裡繁春、横山純治、川村三千男、小嶋三郎、河内花子、工藤夏寛、安達久美子、斎藤志子、斎藤美奈子、中村 巖 計11名

他に、村上市教育委員会の、吉井さん、大野さん

NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考
1	アオハダ	モチノキ	※	33	シシガシラ	シシガシラ	※	65	ハルジオン	キク	※
2	アカマツ	マツ		34	シュンラン	ラン	※	66	ヒサカキ	モッコウ	※
3	アカメガシワ	トウダイグサ		35	ショウジョウバカマ	メランチュウム		67	ヒメアオキ	ガリア	
4	イヌガラシ	アブラナ		36	シロツメクサ	マメ		68	ヒメオドリコソウ	シソ	
5	イモノキ	ウコギ		37	スイバ	タデ		69	ヒメスミレ	スミレ	
6	イワガラミ	アジサイ		38	スギ	スギ	※	70	ヒメモチ	モチノキ	※
7	ウラジロガシ	ブナ		39	スギナ	トクサ		71	ホオノキ	モクレン	※
8	ウワミズザクラ	バラ		40	スズメノカタビラ	イネ		72	マキノスミレ	スミレ	
9	エゴノキ	エゴノキ		41	スミレサイシン	スミレ	※	73	ミズキ	ミズキ	
10	エゾノギンギク	タデ		42	セイイタカアワダチソウ	キク		74	ミズナラ	ミズナラ	
11	エゾズリハ	タデ	※	43	セイヨウタンポポ	キク	※	75	ミチタネツケバナ	アブラナ	※
12	オオイヌノフグリ	オオバコ		44	ダイコンソウ	バラ		76	ミツバ	セリ	
13	オオニワトコ	スイカズラ		45	タチツボスミレ	スミレ		77	ミツバアケビ	アケビ	※
14	オオバコ	オオバコ		46	タニウツギ	スイカズラ		78	ミヤマカタバミ	カタバミ	
15	オトギリソウ	オトギリソウ	※	47	タネツケバナ	アブラナ	※	79	ムスカリ	ツルボ腫	
16	オヤマボクチ	キク		48	タラノキ	ウコギ		80	メリカンカルガヤ	イネ	
17	オランダミナナグサ	ナデシコ		49	チゴユリ	イヌサフラン		81	モミ	マツ	※
18	カキドオシ	シソ		50	チマキザサ	イネ		82	モミジイチゴ	バラ	
19	カスミザクラ ?	バラ		51	ツクバネソウ	シュロソウ	※	83	ヤダケ	イネ	
20	カタクリ	ユリ		52	ツルアリオシ	アカネ	※	84	ヤツデ	ウコギ	
21	カラスザンショウ	ミカン	※	53	ツルリンドウ	リンドウ		85	ヤハズエンドウ	マメ	※
22	カンサゲ ?	カヤツリグサ		54	ナガハシスミレ	スミレ	※	86	ヤブコウジ	サクラソウ	
23	キクザキイチゲ	キンポウゲ		55	ナナカマド ?	バラ		87	ヤブタバコ	キク	
24	キンミズヒキ	バラ		56	ネコハギ	マメ		88	ヤブツバキ	ツバキ	
25	クサイチゴ	バラ	※	57	ノアザミ	キク		89	ヤマザクラ	バラ	
26	クリ	ブナ		58	ノヂシ	キク		90	ヤマツツジ	ツツジ	
27	コウゾリナ	キク		59	ノダケ	セリ	※	91	ヨツバムグラ	アカネ	
28	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ		60	ノボロギク	キク		92	ヨモギ	キク	
29	コナシ	サクラソウ		61	ノミノフスマ	ナデシコ		93	リョウメンシダ	オシダ	
30	コナラ	ブナ	※	62	ハイイヌツゲ	モチノキ		94	シュロ	ヤシ	
31	サジガクビソウ	キク		63	ハコベ	ナデシコ		95	ワラビ	コバノイシカグマ	
32	サルトリイバラ	サルトリイバラ		64	ハナニガナ	キク					

親子自然教室(蔵王山の歴史あともブナ自然林の下見時)

日時 2023年4月19日

備考の※は写真等あり。

場所 蔵王登山口～東屋～金光山高全寺跡～誓応神の大杉～蔵王権現前立堂～今蔵王堂～蔵王城跡～

蔵王権現～千手観音ブナ～高坪山頂上～高坪コース～東屋～蔵王登山口

参加者: 宮裡繁春、斎藤ふじ子、斎藤美奈子、中村 巖 計4名

NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考
1	アオハダ	モチノキ		36	クルマユリ	ユリ		71	ナツハゼ	ツツジ	
2	アカイタヤ	ムクロジ	※	37	ケキブシ	キブシ	※	72	ニガナ	キク	
3	アカシデ	カバノキ	※	38	コシアブラ	ウコギ		73	ノアザミ	キク	
4	アカネ	アカネ		39	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ		74	ノダフジ	マメ	
5	アカマツ	マツ		40	コナラ	ブナ		75	ハイイヌガヤ	イヌガヤ	
6	アキノキンソウ	キク		41	サジガクビソウ	キク		76	ハイイヌツゲ	モチノキ	
7	アクシバ	ツツジ		42	サビバナナカマド	バラ		77	ハウチワカエデ	ムクロジ	※
8	アラカワカンアオイ	ウマノスズクサ		43	サルトリイバラ	サルトリイバラ		78	ハナヒリノキ	ツツジ	
9	イモノキ(タカノツメ)	ウコギ		44	シオデ	サルトリイバラ		79	ハリギリ	ウコギ	
10	イワガラミ	アジサイ		45	シシガシラ	シシガシラ		80	ヒサカキ	モッコウ	
11	ウスノキ	ツツジ		46	ジュウモンジシダ	オシダ		81	ヒメアオキ	ガリア	
12	ウワミズザクラ	バラ	※	47	シュンラン	ラン		82	ヒメシヤガ	アヤメ	
13	エゾイタヤ	ムクロジ	※	48	ショウジョウバカマ	メランチュウム		83	フキ	キク	
14	エゾズリハ	ユズリハ		49	シラネアオイ	キンポウゲ		84	ブナ	ブナ	
15	オオイウウチワ	イワウメ		50	スギ	ヒノキ		85	ホウノキ	モクレン	
16	オオカメノキ(ムシカリ)	ガマズミ		51	スミレサイシン	スミレ		86	マキノスミレ	スミレ	
17	オオタチツボスミレ	スミレ	※	52	タガネソウ	カヤツリグサ		87	マルバアオダモ	モクセイ	
18	オオバキスミレ	スミレ		53	タチツボスミレ	スミレ		88	マルバマンサク	マンサク	※
19	オオバギボウシ	キジカクシ		54	タニウツギ	スイカズラ		89	ミズナラ	ブナ	
20	オオバクロモジ	クスノキ		55	タムシバ	モクレン	※	90	ミツバアケビ	アケビ	
21	オクチョウジザクラ	バラ	※	56	タラノキ	ウコギ		91	ミヤマカタバミ	カタバミ	
22	オクノカンスゲ	カヤツリグサ		57	チゴユリ	イヌサフラン	※	92	ミヤマガマズミ	レンブクソウ	※
23	オクモミジハグマ	キク		58	チマキザサ	イネ		93	ミヤマハコベ	ナデシコ	
24	オヤマボクチ	キク		59	チャボガヤ	イチイ		94	ムラサキケマン	ケシ	
25	オヤリハグマ	キク		60	ツクバネ	ビャクダン		95	モミジイチゴ	バラ	
26	ガクウラジロウラク	ツツジ		61	ツクバネソウ	シュロソウ		96	ヤブコウジ	サクラソウ	
27	ガマズミ	ガマズミ		62	ツタウルシ	ウルシ		97	ヤブヘビイチゴ	バラ	
28	キバナアキギリ	シソ		63	ツルアリオシ	アカネ		98	ヤマウルシ	ウルシ	
29	キバナイカリソウ	メギ		64	ツルキシミ	ミカン		99	ヤマグワ	クワ	
30	キヨタケシダ	イワテンダ		65	ツルリンドウ	リンドウ		100	ヤマツツジ	ツツジ	
31	キンミズヒキ	バラ		66	テリハタチツボスミレ	スミレ		101	ヤマモミジ	ムクロジ	
32	クサソテツ	コウヤワラビ		67	ドクダミ	ドクダミ		102	ユキグニミツバツツジ	ツツジ	
33	クズ	マメ		68	トリアシショウマ	ユキノシタ		103	ユキツバキ	ツバキ	
34	クマイチゴ	バラ		69	トリガタハンショウヅル	キンポウゲ	※	104	リョウブ	リョウブ	
35	クリ	ブナ	※	70	ナガハシスミレ	スミレ		105	リョウメンシダ	オシダ	

高坪山の自然に親しむ会（2023年度荒川みらいファンド事業の予定）

月	事業	実施予定日	集合場所	集合時間	下見日
4	親子自然教室① 蔵王口～高坪山山頂	29日(土) 予備30日(日)	胎内市蔵王 集落開発センター	8:40	19日(水)
8	親子自然教室② 石油(油坪・記念館)と火山灰	5日(土) 予備6日(日)	胎内市シンクロン 記念館	8:50	1日(火)

助成事業の申請を行っていましたが、5月12日付けで“不採用”の通知がありました。「同一事業は3年が限度であるのに、本事業は同一とみなされ、年限を超えている」というもの。

そこで、予算の裏付けがないので文化祭での「高坪山自然紹介」は中止、調査報告会は11月11日(土)に村上市教育情報センターを会場に、いわふね自然愛好会主催に切り替えて開催(詳細は役員会の承認を得てご案内します)。自然教室②は楽しみにしている子供達もいることから、実費徴収で開催。高坪山の自然の魅力は次年度以降の“環境フェスタ”においても紹介していきたいと考えております。(富樫記)

山元遺跡周辺自然調査

調査実施日 … 通常 毎週第2, 4水曜日

3月22日, 4月12日, 4月26日, 5月10日, 5月24日, 6月14日, 6月28日, 7月12日,
7月26日, 9月13日, 9月27日, 10月11日, 10月25日, 11月8日 … 計14回

集合場所, 集合時間 … 旧神納東小学校駐車場, 毎回 8:50分 集合

学習支援事業

自然観察会等要請があった場合、その都度対応。

講師などの依頼がありましたらご協力をお願い致します。

環境保護支援活動

マダラナニワトンボ生育池の保護活動。 本年度は6月24・25日に開催の案内が届きました。
場所等は、高根ミクリ池, 松ノ平池。 関心のある方は富樫会長までお問合せ下さい。

新入会員紹介

総会后、次の5名の方々が新しく会員になりました。
ご紹介致します。

長谷川 さん (村上地区)
板越 さん (荒川地区)
渡辺 さん (胎内市)
菅井 さん (村上地区)
金子 さん (荒川地区)

いわふね自然愛好会会報 第56号

発行者: 会長 富樫 繁 春

〒958-0213 村上市早稲田 1962-47

TEL Fax 0254-73-1348

E-mail : sph43t89@flute.ocn.ne.jp

編集: 会報担当 鎌田 剛